

北杜市立中学校再編整備検討委員会（第7回会議） 会議録

1. 会議名：北杜市立中学校再編整備検討委員会（第7回会議）
2. 日 時：令和6年1月31日（水）午後7時00分～
3. 場 所：北杜市役所 北館3階 大会議室
4. 出席者：
（委 員）保坂智之・小寺亜希子・望月貴光・鈴木良長・堀込美友・古屋昭彦
山田輝夫・白倉美奈子・石川博之・萩原長人・日向五十鈴・小林明
興水清司
（事務局）日向行政改革担当リーダー
加藤教育部長・鷹左右教育総務課長・
進藤教育指導監・浅川総務担当リーダー・大久保総務担当
5. 議事
（1）地域説明会、成人式出席対象者へのアンケートの状況について（資料1-2）
（2）北杜市立中学校再編整備の方向性について（資料3）
（3）その他
6. 公開・非公開の別：公開
7. 傍聴人の数：8人

議 題

(1) 地域説明会、成人式出席対象者へのアンケートの状況について

- (委員長) ただいま事務局から説明がありました。
- 地域説明会と成人式の対象者へのアンケートということで、ここでご質問や確認したいこと等があればお伺いしたいと思います。質問、意見でなくても感想等でも構いません。このアンケート等を見て、何か感想や思ったこと等がありましたら発言をお願いします。
- 特にないようですがよろしいですか。では、また後で何かありましたらお願いしたいと思います。
- 私自身はこれを見て感じたのは、中学時代 94 パーセントとかなりの高い割合ですが、部活に所属していて、部活に最も力を入れたというのが、全体の 53 パーセントと非常に半分を超えているということ、その次が、勉強、友達関係という状況で、いかにこの部活の存在というのが、中学校時代には大きいのだということを、改めて確認させていただきました。
- あと、クラス替えの項目でも、87 パーセントがあった方が良いという回答していて、今後の検討にあたって参考としてほしいと考えました。
- 引き続きまして、議事 2 の北杜市立中学校再編整備の方向性について議題としたいと思います。
- 事務局より、前半の大項目の 1 と 2 について説明をお願いします。

(2) 北杜市立中学校再編整備の方向性について

1 再編整備の背景 2 北杜市立小中学校適正規模等の検討の概要

- (委員長) ただいま事務局より 1 と 2 について説明がありました。
- これまでの検討の経緯や内容を踏まえたものとなっておりますが、まず、前半の 2 ページから 5 ページまで再編整備の背景につきまして、何かご質問または確認しておきたいことがあったら、挙手をお願いします。
- お願いします。
- (委員) 先の能登半島地震で被災された方につきましては、心よりお見舞いを申し上げるところであります。
- 昨今、糸魚川静岡構造線ということを考えますと、災害はいつどこで起きるかわかりません。今回、ライフラインに大きな被害を受けまして、北杜市区においても、防災に対して関心を持っているところであります。
- 北杜市の地形、面積から中学生に通学時間の負担、また通学の安全を考慮して、白州、武川中学校を統合・新設し、新設中学校に支所と図書館、複合機能を持たせた建物とする。1 階部分を支所と図書館スペース、1 階から 3 階までを中学校とし、災害時、室内体育館を一次避難場所とし、水、燃料、食料、衛生用品等の保管、備蓄の倉庫とする。家庭科教室については炊き出し用の施設、教室に余裕を持たせプライベートルームとしての宿

泊機能を備える。電気は屋上でソーラー発電し、暖房器、電気施設に供給できるようにします。プールの水を活かし、浄化装置で飲料水、水洗トイレ等の用水として使用する。須玉、明野も統合して同じように複合施設の機能を持たせる。

2,000年に1度と言われている地殻変動が起こっています。今、起こっても不思議ではありません。

統合後の旧図書館、図書館フロア、育児の遊び場は外に公園等の施設を作り、高齢者の通い場として、サロンの施設と、育兒子育て中の親子、高齢者の出会いの場として、フリーフロアとしたらどうか。これについては、関係者で検討をしていただければと思います。

あと、小淵沢、長坂、大泉、高根中学校4校は、総合支所も含めて複合機能を持たした2校に再編したらどうかということで、今回提案させていただきました。

(委員長) ありがとうございます。

今後の災害発生を想定する中で、対応できる施設を学校の再編整備に限らず考えてみたらどうか、そういう考えであると理解をしました。

具体的な校名であるとか学校数であるとか学区であるというのは、今後ということになりますが、意見については、参考にしていきたいと考えます。では、次に進めたいと思います。

続きまして、6ページから15ページまでの北杜市立小中学校適正規模等の検討の概要をまとめたものになりますが、何かご意見等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

続きまして、3再編整備の方針、それから4新設の市立中学校の目指す姿について事務局から説明をお願いします。

3 北杜市立中学校の再編整備の方針 4 新設市立中学校の目指す姿

(委員長) はい。ただいま事務局より大項目の3と4について説明がありました。

これまでの検討内容を踏まえた今後の方針、そして目指す方向性を示した内容となっております。

この部分につきましては、関連がありますので、3と4を一括して検討してまいりたいと思います。

3と4の部分につきましては、質問、ご意見をいただきたいと思います。お願いします。

(委員) 保護者の代表として、ここに委員として座っております。

通学距離や未来の生徒数などを加味して考えると、北杜市内に中学校は2校が最適ではないかと思います。この2校案が本日、結論として資料3に

記載されるのでしょうか？

私はこれで3回目ですけど、毎回、中途半端な検討委員会になっていると感じています。

6月に小学校中学校の説明会を行いました。8月には、1回目の検討委員会、11月に地域で説明会をしています。説明会の参加人数を見ると、地域には、この件について関心がないのかと受け取りました。

私も地域説明会がどんな感じかと参加をさせていただきました。参加していた皆さんの顔ぶれですが、中学の学園祭、愛校作業、ボランティアには来てなかったかなというような方がほとんどでした。

本日、今の説明を聞いたままこの会議が終わると、いつ未来の北杜市の素晴らしい中学校ができるか、不透明なままです。本日、21ページ、22ページに、2校が最適ですという文言を入れていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

(委員長) ただいま委員の方から、ここまで方向性を示す中、これまでの色々なデータ等を踏まえる中で、具体的に2校という方向を示すのがいいのではという提案がありました。

これまで、学年の規模については1学年3～4学級程度ということが望ましいということを書いてきました。水平統合を検討する中で1校、2校、3校という例を資料で示してきました。3回目の検討委員会の資料3中でそういう資料が示されています。そこに、1校、2校、3校統合それぞれ場合、何学級程度が作れるかというような例として示してあります。

それも踏まえて、委員の方から3～4学級ということであればやはり2校がいいのではないか、そういう方向性をここで確認したらどうかというような意見だと捉えたわけですが、他の委員の皆さんこの意見に対してどうでしょうか。

(委員) もう、すでに長いこと教育論や様々な観点から論議をしてきました。要は子供たちにとって、物理的にどういう風な学校を作るのが良いかということ、やっぱり総合的に示す、あるいは提案するという時期だと私は思います。

過去に実施した中学校統合の説明会に保護者の皆さんがあまり足を運んでくれなかった原因の1つに、説明会に行っても具体的な話はないだろうと思っていたからだと思います。

私は市民の皆さんから賛成も反対も色々あるだろうけれども、検討委員会あるいは市としては、こういう方向に進みたいという態度や意志を市民に出すべき時期だろう。

私は、市に中学校は2つということ、最初から主張しており、原則として従来の施設を使うということ、増築改築には反対でした。新たに2つの中学校を、物理的に中学生の通学を考えると、この地域でこういう中学校

を建てますと、提案していただければと思います。

(委員長) ありがとうございます。
検討委員会としてももう少し踏み込んだ形で、2校という形で検討していったらどうか、との意見をいただきました。また、既存の施設も活用しながらの部分についても、できるならば新しく新設校を作っていく方がいいだろうというご意見を合わせて伺いました。
二人の委員に関わってその他の皆さんどうでしょうか。
お願いします。

(委員) 今まで、十分課題が出されて、どうしたらいいかも話し合われた結果がまってきたわけです。今後の目指す姿、が提示されて、その通りの学校を目指していかなければいけないってことは、今までの検討会で論議されてきたと思います。
単なる統合ではなくて、今出されたように新しい未来思考の学校を、ぜひ実現させていただきたい。北杜市の未来志向の学校、すごい学校、いい学校ができたねってところに持って行ってほしいなと思います。
これらの方向性が実現されれば、そういう学校に行くでしょう。先ほど委員さんからも話ありましたが、災害等を含めて施設設備の方も、単なる学校に避難されてくる姿を見ると、子供たちの兼ね合いで、いい面と非常に影響がある面と、複雑な気持ちで非常に見えていますので、やっぱりそういった災害も含めて、未来志向で作られた学校は考えていく必要があるだろうと思います。
映像で能登半島地震の子供たちの学校再開の言葉は、本当に嬉しいと思います。勉強がしたい、友達と遊びたい、会えて安心した、こういう言葉を映像で見ることができます。やっぱり学校というのは、子供の居場所として楽しいところでなければいけない。
そして私たちの考えている以上に、次の世代を背負う子供たちですので、単なる統合の学校ではなくて、未来志向の新しい姿の学校を築いてほしいと思います。私はそこに重点を置いて行ってほしいと考えております。
多くの子供たちは、小さい集団でも大きい集団でも適用できていくと思います。
環境的に他の学校で学んでいる子供たちと機会均等に教育ができることがすごく重要だと思います。北杜市も全国に負けない機会均等の未来志向の学校といった方向で、今後決めていただければいいかなと思っています。以上です。

(委員長) ありがとうございます。
先ほどのご意見と関連する中で、単に統合するというだけではなくて、防災等も含めて地域の拠点にもなるかと思いますが、新しい姿、未来志向の

学校を目指していくことを、ぜひ検討の中に含めてほしいというご意見がありました。

これまで、2校という基本方針を示したらどうか。それから、学校を作る際には、新しい考えで伺っておりますが、これに関連してご意見あったらお願いします。

(委員) 今回、資料2の方に成人した子供たちのアンケートがありますが、クラス替えはあった方がいい。交友関係が広がるのがいいと思います。部活動についても、少ない人数で競い合いをするのではなく、大勢の仲間と一緒にみんなで高め合うという経験が大事だと思いますので、統合の方向性についてしっかり決めていただいて、北杜市として打ち出してほしいと思います。よろしくお願いします。

(委員長) 委員の方から、成人者のアンケートも踏まえる中で、クラスの規模、いろんな形の部活動に関わる希望、統合の方向性をはっきりと出していくことの見解が出されました。他にどうでしょうか。お願いします。

(委員) 3児の母ですが、やはり私ももうここで2校、全部新しく決めていただけると、その方が周りの保護者たちも意見を出しやすいです。今はどうするかぼやっとしている状態なので、意見が出せず、不安だけ残っている。方向性は示していただきたいと思います。

(委員長) 委員から2校、新設でということも示して、それを基に保護者等の意見を聞いたかどうかというご意見でした。他、どうでしょう。

(委員) 16ページ、17ページで、今回初めて再編整備の方針について市の方から出され、私もこれを読んでとてもワクワクしました。今、それぞれの学校で、いろんなことしているが、それが統合されれば力強く推進できるということが、だんだんはっきりしてきた感じがして、とても嬉しく思っています。思春期を迎える中学生にとっては、切磋琢磨することや、思いやりの心を育てることや、みんなで協力し合うことは、どうしても必要なことで、そういうことがたくさんの友達や仲間とできることは、魅力的なことだと思います。ある程度の規模の学校で、そういうことを実現させてあげたいなと思っています。以上です。

(委員長) 現場の状況も踏まえる中で、今後の中学校がだんだんはっきりしてきたというようなご意見を伺いました。それに加えて、今の2校という方針もここで確認したらどうかということも出ております。

その他はどうでしょうか。

(委員) 今、正解のない社会、先行きの見えない社会ということで、結果は見えない状況だと思います。でも、事務局の方から出された資料等を見ていく中で、考えられる最善のことが示されていると私は考えます。特に北杜市の特徴としましては、何年か前から比べると、多様性を持った子供や家庭に対応してきていると思います。小さい学校においては、十分な教員とかの人数を補うことも難しいが、大きな学校になることによって、そういった子たちも支えていけるような可能性も、私は感じております。学級や教員の数、そして学習の内容等を示されたところを考えれば、2校案に私は賛成です。

(委員長) ありがとうございます。委員の方から、今の社会や学校の状況を踏まえる中で、ある程度の規模で対応していくことが望まれるのではないかと。具体的に2校に絞るといふそういう考えも、この段階で必要なのではないかと。というご意見を伺いました。

では、ここでちょっと絞って、その2校という具体的な数字が出ていることに対して、何かご意見、反対とか賛成というだけではなくて、そのことに対してのご意見とかありますでしょうか。

お願いします。

(委員) 生徒の数を見ていただきますと、小規模校の代表のような人数ですので、下から2番目、来年はさらに1番下になるような規模ですから、教員数にも影響が出ます。

教員の配置が今後人事の方も動いていきますが、学級数の規模で限られてしまっているという規則がありますので、その上で適正さというものを、先ほどから事務局の方から示していただいているところを議論せず、子供のためにとする視点でやはり議論していくべきところを、やっぱりおろそかにはできないと思います。

他の大きな学校では、9教科の先生が揃って、複数の考え方や多様性に対応する考え方を入れながらの教育が可能な状況。武川中をはじめ5校ぐらいは、偏ったとまでは言えませんが小規模校の辛さを抱えながらやっている。

それが何年後かには、もうどの学校もそれができなくなっていくということですので、早めに方針を出していただくことと、やはり適正さというところをしっかりと目を向けていただいて、2校というところをしっかりと皆さんで議論していく必要があると思っています。

(委員長) 中学校の規模として、3学級以下は小規模校になるわけですが、3学級以下でも様々な段階があり、全校45人を下回るとまたここで違ってきます。

山梨県では45人を超えると、34加配という3学級でも1人加配がつくというそういう制度がありますが、45人を下回るとそれすらなくなり、超小規模化という状態が生まれてしまう。

他県では中学校で複式があるわけですけど、山梨県はたとえ学年1人の生徒になっても1学級は編成されるという、いいところでもあります。

今、小規模校に関わって必要性の意見が出ました。

他、ありますでしょうか。

(委員) 高根中学校は、今1、3年生が3クラスで2年生が2クラス。今考えられるほぼ理想の2つの学校の規模ですが、もちろん県費の先生方は、定数で教頭先生も含めて14配置されています。市の方でも支援員とか補助教員を配置してくださっています。

当校の規模になるといろんな生徒がいます。でもたくさんの中学校がある関係で、補助教員先生が0.5、それから、支援員さんが0.5、スクールサポートスタッフが週何時間しか配置されていません。でも2つの学校になるとすれば、その4倍にはなるということですよ。そうすると、多様な生徒、または不登校に関わっている生徒とか、いろんな生徒に市のお金でも援助が厚くできるようになるのではないかなと期待しています。

(委員長) 確かにそういうことは言えるのではないかと思います。

他、ご意見ありますでしょうか。

(委員) 武川中学に子供を通わしています。今、3年生16人。今後はさらに減って今度の新1年生は聞くとところによると9人と、いよいよ1桁になってしまうところですよ。

私の時代は54人生徒がいました。当然クラス替えもあって、いろんな人がいて、そこでいろんな人と触れ合いながら切磋琢磨して成長してきたという風に思っています。小規模校だと人間関係の環境も狭いし、能力とか技術を身につける場面でも狭くなる。

中学生って非常に、急激に成長する時期に、いかに多くの人と触れ合っているいろんな人を見て、そこでいろんなものを学ぶと思うんですよ。そのバックに先生がいます。先生も大勢いることによって、サポートが大きくなると思うんですよ。

数人の先生だと面倒が見切れないと思うんですよ。小さい環境からいきなり高校っていう風になってしまうので、ある程度のステップを踏みながら、最終的には大きな社会ってところへ出てかなきゃいけないので、成長に合わせて段階的に慣らしていった方がいいと思います。

というわけで、先ほどの2校案がベストではないかと考えております。

(委員長) ありがとうございます。

ご意見を伺う中で、統合という方向性、それから小規模校の課題を踏まえつつ、2校を基本としておく方向がいいというご意見が多いと捉えているわけですが、その他のご意見があったらお願いします。

私たちはこれまで垂直か水平か組み合わせかという議論をスタートにしなが、水平が望ましいという方向性を出し、それを保護者そして地域の方に持って行って、ご意見等を伺ってきました。

その中でここまで来ているのが、やはり水平統合が、しかも3から4学級程度が望ましいだろうという意見を確認しつつ、今日の意見の中では、もう少しイメージがはっきりできる2校を基本とするという方針を打ち出したかどうかというご意見も伺っているところでもあります。あとは新しい学校を新規に建てるということです。

あくまでもこの検討委員会の総意の方向性ということで、確認をしていく方向でどうかと私は思っていますが、事務局の方でどうでしょうか。今後の方向性も踏まえてですが。

(事務局) 教育委員会といたしましてこの検討委員会に対しましては、子どもは特に案を持たずに、色々な客観的なデータと状況等をお示しした中で、委員の皆様には忌憚のないご意見を頂戴してきたと考えております。今後、市の方でより具体的な検討を進める上での貴重なご意見ということで捉えさせていただけるのであれば、検討委員会での一定の方向性というものをお示しいただきますと、大きなものになるかなと現時点では考えております。以上です。

(委員長) 今の事務局の説明に対して何かご意見ありますか。
資料の17ページにもありますように、新設校の配置、今後の予定ということで、学校規模、通学距離等を考慮し、学区を定め活用を検討しながら、安全や環境とか通学距離を総合的に検討することになっています。今後いろんな調査や具体的なことをはじめた場合に、本当に2校が可能かどうかということもここでは確約はできるものではないと思っております。ただ、委員会の総意とすれば3から4学級であるならば北杜市として2校を基本とすることが望ましいという、意思表示を示していくという確認でよろしいでしょうか。

(委員) はい。

(委員長) 今後、当然ここで決定してすぐ計画に入ることではないと思います。また、説明等もしていく必要があると思います。具体的な学区等も今

後研究してく中で、示していく必要があるだろうなということも考えるところでは。

事務局の方に具体的な案等はお任せする中で、また示していきたいと考えておりますが、そういう確認でよろしいでしょうか。

(事務局) ただいま委員の皆様のご意見の集約と私は捉えさせていただきました。今後私どもはより具体的な検討を進めてまいりたいと考えております。

この再編整備検討委員会につきましては、令和元年度に設置しました北杜市立小中学校適正規模等審議会からの答申の内容を、委員の皆様にご理解をいただき、審議会でご示されました課題、論点を抑えていただいた上での、議論、検討をこれまでしていただいたところであります。

本年度は、昨年度の末に取りまとめられた中学校の再編にあたっては、水平統合を基本とし学年3から4学級程度が望ましいという基本的な方向性を、より具体的なものとするようこれまでも検討をいただいたところであります、

本日、委員の皆様から今後の中学校の在り方の検討を進める上での方向性、具体的に2校というような方向性が示され、委員の皆様の共通の認識となったことだと私は捉えております。

市といたしましても、この検討委員会での議論、意見の取りまとめ等大切に受け止めながら、これからより具体的な検討を進めるための観点としてと考えております。

これまで活発なご議論をいただきましたこと、御礼を申し上げます。ありがとうございました。

(委員長) 事務局の方からありましたが、そのような方向性でよろしいでしょうか。

(委員) はい。

(委員長) ありがとうございます。

今日出ました他の新規の学校であるとか、複合施設をぜひというそういうようなこともまた今後その中に含めて検討したいと思っております。

他全体を通しまして、委員の皆様から何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。

事務局より何かありますでしょうか。いいですか。

以上を持ちまして議事を終了とさせていただきます。ご審議ありがとうございました。

進行事務局にお返しいたします。